

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム だんけ胡四王(B棟)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500189		
法人名	社会福祉法人 花巻東雲会		
事業所名	グループホームだんけ胡四王(B棟)		
所在地	岩手県花巻市胡四王一丁目15番地5		
自己評価作成日	平成 29 年10 月10 日	評価結果市町村受理日	平成30年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2017.022.kani=true&Ji.gvosvoCd=0390500189-00&Pr.efCd=03&Ver.si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年11 月6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 恵まれた環境を生かす:近くに新花巻駅、市の重要文化財である熊谷家、宮沢賢治記念館、博物館、童話村があり、外出先となっている。2. 地域との関係:月2~3回地域の方が来所し歌、体操等利用者とおこなったり、お茶のみをしながら交流している。3. 医療との連携:近くの開業医の協力を得て看取りを10年以上継続している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに宮沢賢治記念館や童話村があり、事業所の庭に賢治ゆかりの花壇がある。建物は木造の趣がある落ち着いた造りとなっている。周辺に新幹線新花巻駅、市指定重要文化財の古民家や神社、レストランがあり散歩やドライブで訪れている。理念「尊厳を守り、優しい言葉がけ・対応」を共有したケアに努めている。2ユニットで、職員は両ユニットを勤務し、4名の夜勤専門員により弾力的勤務が組んでいる。交流では保育園行事の見学、中学生ボランティアの来所や毎週金曜日に地元女性たちが訪れている。管理者は看護師資格を有し、地元クリニックと連携し、これまで8名の看取りを行っている。職員同士で何でも話し合う、チームワークの良い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム だんけ胡四王(B棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をA棟B棟それぞれの掲示板に掲示し、仕事前に唱和している。利用者の一日の生活の安全につなげている。	開所時に制定した理念「尊厳を守り」「優しい言葉かけ・対応」を毎朝唱和し確認し合っている。利用者の立場に立ち「不快な言葉や対応」とならぬよう職員間で留意し合い、日々のケアにあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	熊谷家、保育園の行事に参加している。利用者が作った作品等ブドリ舎に展示し見学に行っている。キャビン、山猫軒等外食で利用している。	開所当初から地域にある「金ママの会」が毎週金曜日に来所し、ふれあいルームでくつろいだり、利用者や歌や折り紙で交流している。また、ボランティアの踊りを見たり、絵手紙を書いて投函し、利用者の作った作品は他の作品とともに地域の文化施設(ブドリ舎)に展示されている。近隣保育園の行事に参加し交流もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月2回地域の高齢者が当施設集まり、歌ったり、お茶するなど交流をしている。地域のボランティアの踊りを見て楽しんでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の割合で、運営推進会議を開催し意見、要望等事業所運営に反映している。(居室によしづとりつけたこと)	会議では利用者の様子や活動報告の他、ヒヤリハット・身体拘束・虐待などテーマを決めて勉強会をしている。委員から避難訓練の手伝いの提案や、サロンへの招待などが話題に取り上げられている。委員の提案を受けて夏場の西日対策として、窓にヨシズを下げ室温の低下が図られている。	事業所運営の発展に向け、自治会や民生児童委員などの参加や、警察・消防・保育園関係者を招聘し安心安全や交流をテーマに話を聞くことなどにより、会議の活性化を図ることが期待される。また会議録を整え、職員及び利用者家族と情報を共有することについても一考されたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時、包括支援センターの職員と意見交換している。市開催による認知症予防などについて意見交換した(地域の施設職員民生委員)	運営推進会議の委員である地域包括支援センターの職員と密に連絡や相談を行い、市主催の研修会等にも参加し情報交換を行っている。なお、成年後見制度の利用者が入居しており、市と連携して支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	独自の身体拘束廃止宣言を作成し掲示している。勉強会を行い職員全員で共有している。	事業所として「身体拘束廃止宣言」を作成し、掲示し意識付けを図り、利用者の立場に立った適切なケアに努めている。スピーチロックが気になるときは、職員間で話し合い利用者が安心して和やかなホーム生活を送れるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝のミーティング、週1回の勉強会でヒヤリハットを用い虐待にならない様に喚起している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護について、研修に参加し職場に於いて、勉強会、ミーティングで説明し、利用者の権利を守るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時契約書に基づき、利用者家族に説明し理解を得、署名してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時運営規定に基づき説明している。同時に利用者、家族の要望を取り入れるようにしている。運営推進会議に利用者、家族代表が入っているので反映できる。	運営推進会議での家族からの要望等のほか、事業所の呼びかけで年1回の家族会を開催して年間行事の説明を行いながら、家族からの意見・要望を伺っている。また、個別面談では、医療費の質問が出されその都度応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議で話し合いを行っている。運営に関して意見が反映できるようにしている。(理事長、事務長、管理者同席)	毎月の職員会議で自由活発な意見が出されているが、日常的には介護主任を介して職員の声を受け止めている。夜勤手当や忌引きなど労働条件についての要望が出されているほか、今年7月から調理専門員を配置し、勤務の改善を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤勤務者の増員、夜勤専従者の雇用を図ると共に、介護職員処遇改善手当やキャリアパスの充実、働きながら介護福祉の資格取得の支援などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が研修を受けれるように色々に分かれて参加させている。パートでも施設内で勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム協会に参加し情報の収集、交流に努めている。また花北ブロックで研修、施設見学・視察、交流会をおこなっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時家族、本人から話を伺い、要望・不安等に丁寧な耳を傾け、説明し理解を頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族と面談し、ゆっくり話をしながら、良い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時アセスメント～ご本人の希望と必要性等により、サービス内容を検討し支援するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、行事食作り、誕生会、野菜の下ごしらえ、折り紙、絵手紙等作業を一緒にし、楽しみの時間作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な介護計画のほかに、都度の変化時や、情報等により、家族、ご本人に説明、意見調整しながら、介護計画に反映できるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事・祭り・地域の運動会等への参加や外出に支援しています。また地域の友達の訪問があった際は場所を提供しています。	隣接する古民家で行われる神楽の見物、保育園児や毎週来所する「金ママの会」との交流がなされている。家族の協力でお盆の墓参り、秋祭り見物もある。近くの床屋さんが来所し、殆んどの方が利用され新たな馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでのテーブル設定や、気の合う同士の会話、散歩同行等、関係を深められるように配慮しサービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居者への訪問や、家族からの情報等にも継続し関わりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の意向を聞いて、把握に努め、職員・家族と情報共有する。できる事については、ケアプラン等に反映するよう努めている。	生活歴や家族からの情報、職員による日々の見守りにより、思い・意向の把握に努めている。センター方式を用い「できること」「わかること」を中心に記録し、利用者の潜在能力を把握し、食事準備や洗濯物たたみなどで関わりを持つようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース会議(センター方式)・勉強会等でケア職員間で情報確認、徹底に努め、ご本人の思いに添えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌・個別日誌・申し送りノート等を利用者の情報把握し、情報共有に努めています。 1日のケアについては、3人の日勤者で協議し、ケア内容を徹底するようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の内容を職員間で共有しながらケアに取り組んでいる。また家族の面会時に本人の様子を伝え、要望を聞いている。	職員全員がセンター方式による「私の姿と気持ちシート」に整理してまとめ、月2回のカンファレンスで検討している。介護計画を3ヶ月毎に見直し、家族の要望も加味してプランを作成し、家族に説明、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を毎日業務日誌の記録し申し送りノートを用いて職員間で情報共有、実行している。改めた方が良いものは、話し合い、見直しし、実践につなげる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の家族の要望や、行事、季節に合わせ、地域性に合わせ、要望に応えるようにしている。 また突然の受診にも速やかに対応し家族に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、賢治記念館、童話村・保育園等があります。地域の行事や、施設のホールを開放し、交流できるよう支援している。(神楽来訪)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応が困難になってきている現状です。出来るだけ本人、家族の要望に応えるよう努めています。緊急時は協力病院を利用しています(家族の了解得て)。	受診の際の家族付き添いは難しい状況にあり、3分の2程は職員が同行している。また、訪問診療等は導入しておらず、近くの医療機関を利用している。家族同行の際には、ホームでの様子を記入したシートを託し医師に提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の利用者の変化に、看護師・ケアマネ・介護職員と細やかな情報共有し、早めの対応に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの提出、入手で、早期に、適切な対応ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と思われる時点で家族と話し合い、今後について決めている。終末期については入居時に説明し、その後段階に合わせて意思を確認している。その上で協力医院と連携を取っている。	看取り指針に基づき、利用者・家族の願いに応え、重度化・終末期ケアを行っている。地元クリニックの協力を得ながら、看護師資格を持つ施設長の全面的対応により今までに8名程の看取りを行い、家族から感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故については勉強会を行い、職員の知識を深めている。対応、連絡についてはマニュアルを参考にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を利用者・全職員で行っている。管理権限者・防火管理者・消防士を交えて年1回訓練を行っている。食糧、必需品(オムツ)を補給する。	消防署や地元消防団が立ち合い、運営推進委員も参加して避難訓練を実施している。自然災害(水害)に対応した防災マップを作成し掲示している。東日本大震災時には、沿岸から夫婦が来所され約1年間受け入れている。	火災など非常時には、多くの協力、支援を必要とすることから、地域の自主防災隊との連携を深めると共に、職員による電話の通報訓練や駆け付け訓練、夜間想定訓練、避難方法のシミュレーション訓練等を実施し、万全を期すよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の人格を尊重し、年長者として扱い、それを態度や声掛けに反映し、プライバシーに配慮する様常に心がけている。	理念である「尊厳を守り、優しい言葉かけ・対応の実行」を大切に、利用者に寄り添ったケアに努めている。職員は誇りを損ねない対応を心掛け、利用者からは「お願いできますか？」などの声が返ってくる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の思い、希望を察知しその情報を職員間で共有している。穏やかな雰囲気満ちているので、自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にするために、個々にあった支援について話し合い、理解、認識を深め対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれには気を配り、散髪は3か月に1回行い、外出、季節に適したおしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の収穫から、野菜の刻み、味付け、おやつ作り、配膳等、各自の好みや、能力に合わせて作業を行っている。また仲の良いそれぞれのグループで食事をしている。	自家菜園で収穫した野菜で料理を作ったり、また、近所から頂いた梅で梅干しづくりや、干し柿づくり等をしている。食事で「肉が食べたい」との声に応じ、近くのレストラン数軒に数人ずつ分かれて出向き外食をしている。なお、「季節の食材に配慮」など食事を作る上での配慮すべき6項目を作り、また、高齢者のための食事学として「食欲がわいてくる工夫」「便秘に注意するよう調理工夫を」など4つの視点に留意した健康管理に配慮した食事作りに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給を十分にする為、1人1人の好みによって、飲み物の種類を変えたり、嚥下の状態によりロミをつけたりしている。また毎月食事量(間食の量)、献立の中身を個別に変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実践を歯科医の指導で行っている。自分でできる利用者は声掛けを行い、利用者によって、介助を要する人には、歯や舌の状態を見ながら介助をし、記録を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導やサインを見逃さないように、排泄の記録を読み援助している。	排泄チェック表により利用者の状態に応じ、見守り・声掛け・誘導を行った結果、布パンツ利用に改善された方がいる。自立の方は3分の1くらい、他はリハビリパンツやパットを用いている。夜間自室でポータブルトイレを利用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について勉強会をしている。水分補給、運動、食事の工夫、排便の記録を毎日行い、必要時下剤、排便を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望を聞いている。脱衣所との温度差を最小限にし、体調に注意している。プライバシーを重視し可能な限り最小の介助としている。	入浴は週2回午前中とし、各自着替えを準備して浴室へ行くようにしている。入浴剤を入れたり、季節の菖蒲湯や柚子湯・りんご湯など変化を楽しめるようにしている。入浴中は音楽をかけ歌を口ずさんだり、職員との会話が弾んでいる。夏はシャワーや清拭など、利用者の希望や体調に応じた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを作り、心身の安定を図り、良眠できるように援助している。 活動(散歩・歌・体操等)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の管理を行い、1回毎に渡し、内服を確認している。1人1人の薬の効果、副作用、用量等一覧にし、貼り出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時生活歴を話して聞く様にしている。1人1人が何をしたいのか、できるか理解し喜んで生活できるように取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、職員が連れ添いながら数人のグループで散歩に出かけるようにしている。帰宅願望のある方には2~3回と散歩している。	ホーム近くの古民家や神社への散歩、周辺の田や畑を見たり菜園の手入れを行い気分転換を図っている。家族の協力で外出・外食・外泊をされる方もいる。冬季は隣接するホームを歩き来して交流したり、近くのレストランを利用し楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の意向を聞きながら、お小遣いの使い方について支援をしている。利用者は直接お金の管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡を取りたい方については、電話をかけてあげたり、本人からの伝言を伝えたり、手紙を出す等、本人の意向に沿った支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間のリビングの音・光・色・広さ・温度等に気をつかい、テーブル配置を考え、大人数も少人数で楽に過ごせる工夫をしている。	木造で天井が高く吹き抜けがあり、和室もありゆったりとくつろげる空間である。薪ストーブが置かれ、震災後の停電時に活用できた。窓からは新幹線の新花巻駅が見え、庭には宮沢賢治がデザインした絵“涙目”をイメージして皆で手作りした花壇がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、椅子の並べ方等を工夫して、独りでも、友達同士でも好きなように過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品や、好みの物などもわかり易い表示を取り入れ、手摺、摺り棒等に工夫し配置し生活への配慮がされている。自分の机・椅子・テレビ等使い慣れたものを居室に置いたりしている。	エアコン、FFストーブ、押入れが備えられ、冬季は加湿器を使い温度・湿度が快適に保たれている。位牌、家族写真、色紙やテレビを持ち込んでいる方がおり居心地の良い居室の工夫が図られている。窓からは広々とした周囲の様子が見渡せる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札、トイレの場所等、わかり易い表示を取り入れ、手摺、摺り棒等工夫して設置し生活への配慮がされている。		